

令和2年度 北九州観光コンベンション協会 事業計画

【ビジョン・事業運営方針】

「都市ブランド力の向上、新たな魅力創造及びシビックプライドの醸成に貢献し、国内外から選ばれるまちを目指す」をビジョンに掲げ、当協会の役割である国内外の観光客誘致・滞在化を促進する観光事業の推進
西日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーンの一体的な運営によるグローバル志向のMICEを誘致・支援
を果たすため、次の活動方針に基づき、各事業を展開する。

8つの活動方針

1. 国・県・市の政策を反映した産業振興に貢献する主催事業の機能強化 公1
 - ・北九州市等の政策を反映した自主事業の開催、ビジネスマッチング機能の強化、インキュベーション型自主事業の拡充、など
2. 国際会議を重視した精力的なMICE誘致開催活動 公1
 - ・国際会議のキーパーソンへのアプローチ、商談会等での北九州の魅力の発信、誘致開催助成金の活用、広域ネットワークによる連携、など
3. にぎわいと新たな領域開拓による施設利用促進 公1、収1
 - ・西日本総合展示場新館・本館、北九州国際会議場の3施設一体管理によるにぎわい事業の実施と、利用者の新規開拓、など
4. 利便性と顧客満足度の高い施設サービスの提供 公1、収1
 - ・利用者・来場者に満足してもらうための、きめ細かいサービスの提供や、快適な施設の運営、など
5. 情報発信・受入態勢の質を高め、国内外の観光客誘致・滞在化を促進 公2、収2
 - ・国内旅行客の誘客、インバウンド誘致の強化、地域資源を活用した情報発信力の向上、など
6. 観光資源、地域団体と連携したまちぐるみのおもてなし気運の醸成 公2、収2
 - ・観光事業・MICE事業協働による観光資源の活用、まちの魅力向上、など
7. 業務改善、チームワーク、個人の創造性を育む組織体制の構築 全
 - ・管理運営上の問題解決、職員能力向上のための教育研修の実施、など
8. 持続可能な施設運営に向けた環境経営 全
 - ・創意工夫による収入確保と経費節減につながるコスト管理、コンプライアンス遵守、リスクマネジメント、など

【令和2年度の主な事業目標（指定管理計画（R元～R5年度）の2年度目標）】

| | |
|--------------------------|--------------------------------|
| 来場者数（展示場本館・新館、会議場の3施設合計） | 96万人以上 |
| コンベンション誘致件数（九州規模以上） | 250件以上 |
| 施設稼働率 | 展示場本館 70%以上、新館 80%以上、会議場 90%以上 |

【目標達成に向けた令和2年度の事業活動】

| | |
|--|-----------|
| 取組1. 協会主催事業の強化（公1：見本市・展示会事業） | 151,627千円 |
| 北九州市の新成長戦略や地方創生総合戦略等、国・県の産業政策の動向を踏まえながら、 | |
| （1）産業・貿易振興型の既存事業の充実 | |
| （2）地域課題の解決に向けた見本市の再編策の検討 | |
| （3）にぎわい創出型事業の開発・推進 | |

（1）産業・貿易振興型の既存事業の充実

令和2年度は「西日本製造技術イノベーション2020」を皮切りに8事業を開催し、東アジア経済の動向や北部九州の産業施策に重点を置き、西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に努める。

「西日本製造技術イノベーション」や「エコテクノ」においては、今後注目が見込まれる「ロボット・自動車・航空機」産業や環境ビジネスをテーマとすることで、地域産業界の新規事業参入や新技術導入の機会を促進するとともに、最新の情報を広く提供する。

《令和2年度開催の事業》

| 事業名 | 開催期日 | 入場目標 | 出展目標 |
|------------------------------|------------|----------|---------|
| 西日本製造技術イノベーション2020 | 6月17日～19日 | 18,000人 | 60社・団体 |
| 第46回ふくおか産業技術振興展 | | | 30社・団体 |
| 第42回西日本陶磁器フェスタ | 9月18日～22日 | 60,000人 | 200社 |
| エコテクノ2020 ～地球環境ソリューション展～ | 10月28日～30日 | 25,000人 | 50社・団体 |
| エコテクノ2020 ～エネルギー先端技術展～ | | | 70社・団体 |
| エコベンチャー・メッセ2020 | | | 20社・団体 |
| 中小企業テクノフェア in 九州2020 | | | 70社・団体 |
| P.P.C.2020 第22回西日本国際福祉機器展 | 11月19日～21日 | 10,000人 | 100社・団体 |
| 合計 | 8事業 | 113,000人 | 600社・団体 |

《企画内容の充実》

『西日本陶磁器フェスタ』の魅力向上

令和2年度は「東アジア文化都市2020北九州」の連携事業として、魅力あるイベントとなるよう取り組む。また、出展窯元によるトークライブや器と関係が深いテーマのセミナーなどのステージイベント、西日本主要産地の組合・団体との協力による作品展を中心に、文化的要素の充実を図るとともにフェスタの魅力向上に努め、新たな来場者層の開拓に取り組む。

『エコテクノ』の充実と今後の方向性

北九州市が推進する「SDGs」や昨年度の展示会において先鞭をつけた「サーキュラー・エコノミー」などの情報を発信することで集客効果を高める。また、地域業界団体と連携し、地球温暖化対策の関連技術や新たな資源リサイクル手法などを紹介することで、地域企業の新たな取り組みへのチャレンジとそれに伴うビジネスチャンスの拡大につながる足掛かりとなるよう内容の充実を図る。

『西日本国際福祉機器展』のリニューアル

従来の展示内容を近年の新たな福祉施策に沿った内容に見直すとともに、出展料金を全面的に改定し、参加しやすい展示会を目指す。また、出展分野を従来の高齢介護支援・障害者支援機器のみに限定せず、新たな関連分野からの出展を増やすことを目標として、来場者の増加とにぎわい効果を高めるものに組み替える。

《ビジネスマッチングの開催》

主催事業における商談等の促進

西日本製造技術イノベーション、中小企業テクノフェア等において、高い技術的知見を有するコーディネーターと連携し、ビジネスマッチングの拡大を図る。

《国際ビジネスの推進》

アジアの関係団体等への出展誘致の促進

韓国釜山広域市BEXCOとのMOUに基づき、共同出展事業や経営者の相互来訪を実施してきた。令和2年度は、BEXCOをはじめとする既存のつながりを活かした海外との取引機会の提供に注力し、北部九州とアジア地域の新たな交流の場づくりへとつなげる。

(2) 地域課題の解決に向けた見本市の再編策の推進

地域において現在直面する課題の解決に向けて、関係機関と連携しながら既存展示会の再編策を推進する。具体的には、今後発展が見込まれる分野との結びつきを深め、異業種交流や新規参入を支援できるものへと再編する。

『地域ニーズを捉えた新規企画』の導入と展示会運営の効率化

SDGsや国の地方創生総合戦略の推進とともに、関係団体との連携による地域ニーズに沿った新規企画を導入する。また、展示会の事業負担軽減を図るため、運営構造の見直しや業務の徹底した効率化を図る。

他展示会主催者との共同開催に向けた意見交換の実施

大都市の主催者や事業部門を有する他の展示場等と意見交換を進め、将来における協力体制や共同開催に向けた道筋を構築する。

(3) にぎわい創出型事業の開発・推進

夏休み・冬休みを中心に、市外・県外からの集客が見込め、メディア等とタイアップしたファミリー・イベントを開催し、市域の活性化に貢献する。また、幅広い年齢層を対象とした全国規模の文化振興イベントを開催し、集客層の拡大を図る。

取組2. コンベンション誘致の強化(公1:会議・大会等)

84,289千円

日本政府観光局(JNTO)が発表した「2018年国際会議開催件数」で北九州市は2年連続で過去最高タイの全国8位となった。厳しい誘致競争の中、国際・全国規模の学会・大会などを数多く誘致し、令和2年度の目標(年間250件以上)を達成するため、(1)グローバルレベルの誘致強化(2)誘致営業活動についての取組(3)ステークホルダーとの連携(4)MICE開催地としての総合的な魅力向上などを柱に、積極的にコンベンション誘致に取り組む。

(1) グローバルレベルの誘致強化

国内外の見本市・商談会に継続して参加することで、北九州市でのMICE開催の魅力を積極的にアピールする。また、現在国際会議協会(ICC A)に加入しており、それを通じて北九州開催に適した会議の情報収集を行うなど、グローバルレベルの誘致体制を整備する。さらに、見本市・商談会で効果的なプロモーションを行うため、セールシートや動画などのPRツールの充実を図る。

(2) 誘致営業活動についての取組

現地訪問による国際ネットワークのさらなる構築、首都圏への積極的な営業、西日本総合展示場・北九州国際会議場の効率的な利用促進、主催事業とのマッチング、MICE開催助成金の効果的活用、スポーツ関係の誘致等に取り組む。

(3) ステークホルダーとの連携

地元大学と締結した「コンベンションの誘致及び開催に関する連携協定」や地元ステークホルダーと設立した「北九州市グローバルMICE推進協議会」を通じ、会議情報の共有や海外への誘致セールス、主催者に対しての開催支援活動に取り組む。昨年度は、JNTOロンドン事務所からの情報により、国際会議の誘致に結び付くなどJNTOとの連携を深めている。今後もこの連携を強化しつつ誘致活動を推進するとともに、情報収集や北九州市の情報発信を図る。

(4) MICE開催地としての総合的な魅力向上

会議支援制度の継続実施、多彩なアフターコンベンションの提案、新たなユニークベニユーの開発、主催者ニーズに応じたコンベンションボランティアによる支援、地元産業の特性を活かしたオリジナルノベルティ商品の開発など、MICE開催地としての総合的な魅力向上を図る。

取組3．貸館利用者の誘致・営業の強化（公1：施設の管理運営） 14,191千円

貸館利用者の定着化・拡大を目指し、施設稼働率の向上、及び収益力の強化を図るため、
（1）リピーターの定着化及び効率的稼働への取組
（2）新規利用者の開拓
（3）施設利用者への各種支援の実施
（4）閑散期「にぎわいイベント」への取組
を柱に、誘致営業に取り組む。

（1）リピーターの定着化及び効率的稼働への取組

当協会の展示場施設の収益の安定を図るため、リピーターに対して、ニーズに沿った日程調整を行い、利用の定着化を図る。特に年間複数回利用の「自動車ディーラー」については、営業課と連携しながら他のリピーターとの兼ね合いをスムーズに解消することで、より効率的な施設稼働の実現に努める。

（2）新規利用者の開拓

展示会以外の新たな分野（コンサートや受験会場等）の開拓やイベント主催者となるテレビ局や音楽プロモーターとの連携を図る。また、市内外から大勢の来客を見込める全国巡回型のイベントを誘致すべく積極的な営業を行う。

（3）施設利用者への各種支援の実施

施設利用者に対して、集客広報や代理申請手続きなどの各種支援を行い、施設利用の利便性を高める。

（4）閑散期「にぎわいイベント」への取組

主に夏休みや冬休みの対策として、ファミリー向けの「にぎわいイベント」の誘致に取り組む。令和元年度の実績では、夏休みに2年ぶり4回目の開催となった「トミカ博 in KITAKYUSHU」が過去最高の来場者数と収益を記録した。また、貸館イベントとして、「いきものキングダム in 北九州」を初開催し、約7万人の来場があった。令和2年度は、「プラレール博 in KITAKYUSHU」の開催を予定している。今後も継続的に「にぎわいイベント」を開催していくため、会場利用等の条件の整備、効果的なコンテンツの選定を十分に見極め、多くのファミリーに喜んで来場してもらえる「にぎわいイベント」を構築していく。

取組4．広報・宣伝、地域連携（公1・収1：施設の管理運営） 7,601千円

（1）広報・宣伝

ホームページに加え、情報誌「催事案内」の発行、小倉駅・JAMビジョンによるPR、新聞広告、JR主要駅やモノレール各駅へのポスター掲示など、開催告知・集客対策を中心とした会場利用者の支援につながる広報活動を実施する。

（2）地域連携（小倉駅新幹線口振興連絡会などとの連携）

小倉駅新幹線口のにぎわいづくりと魅力アップに貢献していくため、「あるあるCity」
「ミクニワールドスタジアム北九州」などと連携したイベントの開催を検討する。小倉駅新幹線口地区振興連絡会と連携し、来訪者向けの情報発信や地域の交流活動を通じて地域活性化に積極的に取り組む。また、小倉中央商業連合会との連携により、商店街内に歓迎バナーやポスターを積極的に掲出し、小倉駅南北の往来活性化を図る。

取組5．お客様満足度の向上（公1・収1：施設の管理・運営） 671,757千円

（1）サービスの向上

アンケートやヒアリング等で寄せられた意見に対して、協会内で検討のうえ誠実に対応し、またホームページにその情報を公開することで利用者との信頼関係を構築する。各施設については、グローバルMICE都市にふさわしく、多種多様な利用者ニーズに対してフレキシブルな対応を心掛ける。

（2）職員の資質・能力の向上

多様化するニーズに適応できる人材育成促進のため、企画力やコミュニケーション能力を高める研修等を積極的に導入する。また、個人情報保護や情報公開などコンプライアンスの遵守等を意識しながら、職員資質、能力開発を図ることにより、全般的なサービスの質の向上を目指す。さらに、QC活動を通じて、日々の業務の見直しや職員間の意見交換、あるいは情報共有の意識を高め、組織全体のレベルアップを図る。

（3）災害による被害の甚大化に対応する防災体制の検討

近年、大雨、台風等の自然災害による被害の甚大化が進んでおり、災害発生時における危機管理体制を確立しておくことが重要となる。そのため、大規模災害の発生に備え、日頃から緊急時の対応や連絡体制を構築し、万一の際には、全職員が慌てることなく、利用者の安全、安心を確保すべく最善の行動を取れるよう準備しておく。

（4）施設・設備の改修等

展示場・会議場をいつも安全・快適に利用していただけるよう、老朽化している施設・設備・備品などの予防保守や改修・改善に適宜取り組む。

（5）展示場本館の対応等

経年劣化による設備等の改修に注意し、効率的・効果的な修繕計画を検討する。施設利用者の会場選定や展示物の損害に直接影響を与える雨漏れの防止対策をはじめ、倉庫改修に伴う控室の拡充等を行う。また、大規模改修工事については、定期利用者等との今後の利用日程の調整を慎重に行いながら工期の設定に向けた準備を進める。

取組 6 . 観光客の誘致及び滞在化促進 (公 2 ・ 収 2 : 観光事業の振興) 1 5 , 7 8 0 千円

(1) 観光客誘致事業・滞在化促進事業

北九州市への観光客が増加している東アジアを中心とした旅行社へのセールスを強化するとともに、国内向けの観光キャンペーンを実施し、北九州市への誘客や滞在化促進を図る。また、各都市で開催される祭り・イベント等への出展やPR活動を行い、他方、北九州市の祭り・イベントへの参加も促すことで、都市間交流による観光客誘致につなげる。

(2) 修学旅行誘致事業

北九州市及び民間事業者で修学旅行誘致ワーキンググループを組織し、修学旅行の行程の実施状況の調査や教育旅行を扱う旅行社へのセールス等を実施する。また、修学旅行の受け入れ体制を充実させるため、新たな修学旅行受け入れのメニューの検討や教育関係者向けに産業観光資源を活用したFAMツアー(視察旅行)の企画などを行う。

(3) 助成事業

さらなる誘致強化を図るべく、国内外からの旅行商品の企画を促進させ、北九州市内での宿泊や日帰り観光者の誘客を促進する。また、北九州市を代表する伝統的な祭事に対し補助を行い、集客力のある祭事の継続による観光客の誘致を図る。

取組 7 . 観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査 (公 2 ・ 収 2) 3 , 7 5 4 千円

北九州市の観光情報やイベント・コンベンション情報を掲載した機関誌「北九州観光だより」の発行や北九州市観光情報サイト「ぐるリッチ!北九州」の運営、観光カレンダーや観光絵葉書等の関連書籍の発行を行う。また、ホームページやFacebookのアクセス解析・分析を行うなど観光客誘致のシステムづくりに向けた調査を行い、その結果を観光客のニーズに合致する観光素材の開発やPR活動の強化に活かす。

取組 8 . 観光に関する人材の育成及び啓発 (公 2 : 観光事業の振興) 3 , 1 4 4 千円

外国人観光客の増加に対応する受け入れ体制の充実を図るため、観光業務従事者を対象におもてなし意識の向上や語学等のコミュニケーション能力のスキルアップを目的としたセミナーの実施や各事業者によるおもてなし活動の紹介などの観光マインド育成事業を行う。また、観光ボランティア制度の運営や北九州観光市民大学の開講、観光功労者・団体を表彰する制度等を通じて、観光マインドの醸成を推進する。



取組 9 . 観光に関する施設の管理・運営 (公 2 ・ 収 2 : 観光事業の振興) 1 3 4 , 6 6 9 千円

公益目的事業では、北九州市、九州旅客鉄道(株)、西鉄バス北九州(株)、北九州エアターミナル(株)、当協会で組織する「北九州市観光案内所運営協議会」において、市内3ヶ所にある観光案内所での官民一体となったサービスの強化を図る。

収益事業では、門司港レトロ地区で運営する「北九州おみやげ館」において、同地区の中心的売店としてのPRを重点的に行い、また新商品や話題の商品等を考慮した品揃えの充実とキャッシュレスでの支払方法をより強化することで収益増を図るとともに、門司港レトロ駐車場及び周辺施設の安定的な事業運営を行う。JR小倉駅3階のJAM広場及びJAMビジョンについては、北九州市の玄関口にふさわしいにぎわいの創出につながるイベントの実施や新たな顧客開拓につながる営業活動を行うことで収益増を目指す。



取組 1 0 . 特産品の紹介・宣伝 (公 2 ・ 収 2 : 観光事業の振興) 1 6 , 6 4 9 千円

北九州市の特産品紹介のパンフレットを作成し、市内各所で設置・配布を行う。ホームページにおいても、特産品の紹介から通販サイトでの購入までを一括で行えるシステムを管理運営し、販売促進に努める。また、市内外で開催されるイベントや観光物産展、あるいは、MICE事業と連携を図り小倉駅新幹線口で開催される会議、大会、展示会等の会場において、臨時売店を出店し、特産品や土産品の販売を行うことで物産振興に寄与する。